

微生物学 I Microbiology I

生命：C2-06211MS

基礎科目 2年／前期 1.5単位 必修科目

科目責任者 森田 雄二(感染制御学研究室)

■教育目的

微生物学が対象とする疾病は感染症である。感染の成立は、生体に侵入し定着・増殖しようとする微生物側の要因と、これを排除しようとする宿主側の防御機構との相互作用に依存する。微生物学 I では、微生物の基礎的性状、分類の基礎、構造と機能、病原性発現機構等について基本的知識を修得する。また、感染症の治療に用いられる抗菌薬の作用機序と耐性化機構を修得する。【卒業認定・学位授与の方針：YD-②、SD-②】

■学習到達目標

1. 生態系の中での微生物(含ウイルス)の役割について説明できる。(知識)
2. 微生物(含ウイルス)の系統分類について説明できる。(知識)
3. 微生物(含ウイルス)の基本構造と性状を説明できる。(知識)
4. 細菌の遺伝子伝達について説明できる。(知識)
5. 抗菌薬の選択毒性と耐性化機構を説明できる。(知識)
6. 細菌毒素、感染の成立と共生について説明できる。(知識)

■準備学習（予習・復習）

予習：1年次までに学んだ生物学、生化学などの知識を整理する。次回の講義内容に該当する教科書ページに目を通しておく(20分以上)。

復習：教科書、講義資料などを見直して知識を整理し、理解を深める(30分以上)。

■授業形態

講義

■授業内容

微生物(含ウイルス)の性状、分類・同定、構造と機能等について講義を行う。さらに、感染症の治療に用いられる抗菌薬の選択毒性と耐性化機構について講義する。

No.	項目	授業内容	備考・SBOコード
1	総論	微生物とは、病原微生物学の歩みなど	C8(3)-①-1
2	分類と同定	微生物の分類	C8(3)-②-1
3	微生物の形態と機能、増殖と代謝 1	微生物の観察、細菌の形態と構造	C8(3)-②-2
4	微生物の形態と機能、増殖と代謝 2	細菌の微細構造	C8(3)-②-2
5	微生物の形態と機能、増殖と代謝 3	細菌の増殖と代謝	C8(3)-②-2
6	微生物の形態と機能、増殖と代謝 4	真菌の形態、構造、増殖、代謝	C8(3)-④-1
7	微生物の形態と機能、増殖と代謝 5	ウイルスの分類、形態など	C8(3)-③-1
8	微生物の形態と機能、増殖と代謝 6	ウイルスの検査、分離、定量など ウイルスの細胞内増殖機構	C8(4)-③-1
9	微生物の形態と機能、増殖と代謝 7	ウイルスの細胞内増殖機構、インターフェロン、バクテリオファージの増殖など	C8(4)-③-1
10	微生物の遺伝	微生物の遺伝情報、微生物のゲノム、細菌の遺伝子伝達(接合、形質導入、形質転換)など	C8(3)-②-4
11	感染と感染症	感染症の成立と共生、日和見感染と院内感染、代表的な細菌毒素 など	C8(4)-① C8(3)-②-6
12	抗菌薬	抗細菌薬(細胞壁合成阻害、タンパク合成阻害、代謝拮抗、核酸合成阻害など)	E2(7)-①-1
13	薬剤耐性	薬剤耐性菌と薬剤耐性化機構	C8(3)-②-5
14	滅菌と消毒	滅菌法と消毒薬	C8(3)-⑤-1,2

No.	項目	授業内容	備考・SBOコード
15	まとめ	第1～14回の講義内容を総合的に復習する	C8(3)-①, ②, ③, ④-1, ⑤ C8(4)-① E2(7)-①-1

■ 授業分担者

森田 雄二(No.1～10, 12～15)、松本 靖彦(No.11, 15)

■ 課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法

期末試験の成績 (100%) で評価する。

■ 教科書

『第7版 薬科微生物学』 杉田隆、安齊洋次郎 編 (丸善株式会社)

■ 参考書

『薬学領域の病原微生物学・感染症学・化学療法学 [第4版]』 増澤 俊幸・河村 好章 編 (廣川書店)

『薬学生のための微生物学と感染症の薬物治療学』 増澤 俊幸 著 (羊土社)